



4



3



1



2

- ① 中学伝習館（明治中期～大正前期撮影）
- ② 旧制佐賀高校（現・佐賀大学）の職員と書類（昭和初期撮影）
- ③ サソリモドキ（昭和16年頃撮影）
- ④ 昭和11年に改築された横浜市の映画館オデヲン座（昭和初期撮影）

暗い場所に外光を当てると景色が映る、という現象を応用してカメラは誕生しました。その後、レンズや感光材料（ガラス板、金属板、フィルム）の進化で鮮明な映像が残せるようになるとともに、1900年代には小型カメラが登場。より広く利用されるようになりました。

従来の芸術とは異なる写真の位置付けは、芸術家の間で議論を呼びました。「写真は単なる記録であって芸術ではない」という考え方があつて、1920年代のドイツで、「写真の無機質なところこそ観る者の感覚に訴えられる芸術だ」とする芸術家が現れます。以降、カメラを傾けたり、わざと二重に写したりと撮影技法が発展。多様な表現が生まれました。

この考え方や撮影技法はすぐに日本へ伝わりました。昭和初期には、写真雑誌での特集やドイツの写真展覧会の来日、新たな写真雑誌の創刊などによって、多くの写真愛好家に広まりました。当時カメラはとて高価でしたが、扱いやすい大きさになったことで愛好家の裾野が広がり、また被写体も多様化しました。

## 新しい写真

市史編さん係 梅本 真央

それまで日本で好まれていたのは、西洋絵画をまねた写真でした。海外からの新しい写真文化に触れた愛好家たちは、客観的でリアルな一瞬をとらえる方法を模索し始めます。

柳川にも幕末から現代までの写真が数多く残されています。その中から、今回は海外の影響を受けた「新しい写真」の特徴が見られるものをご紹介します。これらの写真は、それぞれ別々の家に伝わったもの。「新しい写真」に魅せられ、実践した人が多くいたことが見てとれます。

【写真①】は明治期に撮影された風景です。「一点透視」という西洋絵画の技法により画面に奥行きを感じさせます。

【写真②】は「多重露光」という技法を使って、働く人と書類を一枚に焼き付けています。

【写真③】はサソリモドキです。「鮮明な拡大像で強烈なリアリティを表す」という「新しい写真」の考え方が反映されています。

【写真④】「奇形撮影」と呼ばれる技法で撮影したものです。建物の大きさを強調した斜めに仰ぎ見る構図で、「新しい写真」を象徴する一枚です。

## 市史抄片別巻 vol.70 「思ひ出」写真館

市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月1日号に、同委員会で集めた写真を紹介します。

【問】市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275

ひとを結ぶ。  
まちを結ぶ。

column  
No.79

## 地域おこし協力隊

感染予防対策をしながらお雛様水上パレードを開催



## With コロナ、After コロナと向き合う観光を

柳川に着任して2年目を迎えました。今回は、柳川観光について振り返ってみようと思います。前職は旅行会社に勤務し、観光客を柳川へ引率する立場でした。最後に柳川を訪れたのは3年ほど前。海外からの観光客をはじめ、平日でも多くの人であふれていました。地域おこし協力隊となって、観光客を迎える立場として柳川の観光に携わり始めて、観光地柳川はいろいろな取り組みによって、九州でも有数の観光地として定着していることがよく分かりました。しかし、これまで以上に工夫を凝らしても、コロナ禍で従来の観光客数を維持することは難しい状況です。「With コロナ」、「After コロナ」というこれまでとは違う要素を加えなければ、満足いく集客はできません。こうした状況の中、「お雛様水上パレード」の開催について地域や関係者の皆さんに意見を尋ねてみると、開催を待ち望んでいることが分かりました。コロナ感染予防対策をしながら水上パレードを実施できたことで、柳川を少しだけ元気づけられたのではないかと思います。



竹下 政志 (49歳)

【プロフィール】市観光課に所属。観光プラットフォーム構築を担当

宗茂ら5人のキャラクター（デフォルメデザイン）



## 柳川の地域資源を活かした新しいモノ・コトを創造

早いもので、柳川に来てから1年が経ちました。昨年度は新型コロナに始まり、コロナ禍のまま新しい年度を迎えました。そのため、イベントなどをなかなか開催できず大河招致活動はPR不足だったと感じています。また、ソーシャルディスタンスの観点から地域の皆さんとも顔を合わせることを遠慮せざるを得ず、赴任当初に計画していたものとは違った形の1年でした。そんな中でも、前回の2月1日号のコラムで紹介したとおり、滋慶学園の学生と一緒に柳川歴史偉人のキャラクターデザインに携われたことは、大変有意義な成果となりました。

今年度は、大河招致活動に加え、柳川の歴史や文化などを更に勉強し、それらを活かした商品（モノ）や企画（コト）を提案し、実現に向けての活動をしていければと考えています。感染拡大防止に努めながら、少しずつ外へ出て情報収集や取材をしたいと思っているので、街中で見かけたら、ぜひ声をかけてください。



楠田 千佳 (44歳)

【プロフィール】市観光課に所属。柳川プロモーションを担当